



# いづみさの昔と今 第305回

「絵図をよむ②」浦浜絵図、海の境界と屋敷利用

今回は往古の佐野浜を描いた絵図である「佐野浦絵図」を取り上げます。この絵図の特徴は昔の海岸線を明確にし、土地・屋敷の賃貸・所有情報、新町と湊村の境界、砂浜の波打ち際などを記していることにあります。

この絵図は明治9(1876)年に作成されたもので一部は失われているものの状態が良く、作成された当時の佐野の海岸線を丁寧に描いています。土地・家屋の一部を除き朱筆で地番を書き込み、蔵は家や納屋に比べて大きく標記した上に入出口を細線2本で表現しています。土地・家屋の各箇所には、氏名と賃賃料(斗升合)を記し、氏名には屋号、居住地名が記されています。確認できる屋号には「熊取屋」「魚弥」「貝塚や」「いづみや」「番匠や」「大木や」などがあり、ほかに氏名のみ記載「古妻」「城野」「田端」「中ノ」などが目視できます。「古妻」は砂糖や鏡などを扱う小物商をしながら佐野村で年貢徴収を担当していた古妻四郎兵衛家と古妻善四郎家と思われる、「城野」の名前には補注で明治11(1877)年より魚市場を経営していたことが記されています。また、「大工」「船大工」「番匠や」など大工職に関する苗字・屋号が多いことから船大工や材木を扱う商人が多く

居たことがうかがえます。「蔵」については田田川左岸に集中し、右岸では貸地に添付された賃貸者に関する貼紙から明治9年以降に次第に賃貸者が増えたことがわかります。

土地・屋敷以外の書込をみてみると土地・屋敷の下側に赤丸が並び「此丸印ハ砂浜際凶定メ也」とあることに気がきます。これは波打ち際までの距離を示しており、大潮や災害時の波の浸食、海浜部の開発に際する目安などを考慮して書き込まれたと考えられます。

川や樹木の描写では鮮やかな青で着色された田田川に太鼓橋が掛かり、岸には石積みが確認でき、絵図左端には大きな松の木も描かれています。ほかの川に対して田田川の描写は鮮やかかつ特徴的であり佐野村と新町の境目として認識されていたことがわかります。松の木はそばに「是より北湊浦領」と記す道標らしきものが確認出来ることから、熊取大森神社御旅所があった湊村を象徴する平松を描いたものと思われるが詳細は不明です。

この絵図は前号で紹介したような裁判に利用された絵図ではなく、海浜部の土地・屋敷の利用状況を記録し、更新していくことを目的に作成されたようです。書き込まれた情報からは当時の佐野の砂浜の目前まで屋敷

や蔵が迫り、船に関する職人や商人達が居を構え、中には借地や自宅に魚市場や店を構えたりする者も居たことなどもわかります。泉佐野の景観は発展とともに姿を変えますが、絵図や地図に書き込まれた街並みや光景は時を経たのちも変わらぬその資料の中に姿を伝えてくれます。

町の発展とともに姿を変えた泉佐野の原風景を絵図資料から読み取り紹介する春季企画展「絵図をよむ」は7月25日(日)まで歴史館で開催中です。



▶「湊村の松と新町の借地につけられた貼紙。右端上段「明松」「大木谷」「熊取谷」「中ノ」、右端下段「宮崎」「熊取や」「中ノ庄治郎」などが確認出来ます。

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いづみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、毎月最終木曜日 (いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館)  
開館時間 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)  
入館料 無料

【お詫びと訂正】4月よりレイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いづみさのの休館日が変更となっておりますが、広報4月号が古い表記のままになっておりました。正しくは上記のとおりです。 問合せ先 文化財保護課 (☎447-6766)

## 日本遺産・中世日根荘を巡る② ～旅引付編(6)「香積寺跡」～

「日本遺産」に認定された「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介しします。

問合せ先 文化財保護課



◀政基公旅引付  
※旅引付の写真は、歴史館いづみさの所蔵の複製を使用(原本は宮内庁書陵部所蔵)



香積寺跡

香積寺跡は、上大木の棚田を一望できる日根荘入山田村船淵山麓にあった寺院跡です。約500年前に九条政基が日根荘での生活を綴った日記「政基公旅引付」には、香積寺(香積院)の僧侶が、歳末や年始に荘園領主に接見し、村人に領主の書状を読み聞かせたことが記されており、文龜2(1502)年5月21日条では、長福寺に滞在する九条政基に双紙と呼ばれる和綴りの書物を借りて読んでいます。

江戸時代には七宝瀧寺末寺で大木上村文殊堂と呼ばれており、また江戸末期に描かれた大木村絵図(火走神社所蔵)には「光若寺」と書かれています。

現在は廃寺となっており、シイ・ヒノキの高木がうっそうとした雰囲気となっておりますが、敷地内には寛正4(1463)年の一石五輪塔や永正・天正期の宝篋印塔、歴代住職の墓地などをはじめ、多くの中近世の石造物が残されているほか、地表面をよく観察すると、お堂の基壇跡、礎石、井戸跡が今もはっきりと確認することができ、より詳細な内容については、今後の発掘調査に期待されます。



▲香積寺石造物